

2-2

主 題 口腔機能の維持・向上への取り組みについて

口腔機能の維持・向上

副 題 食べるって素晴らしい！

職員の意識改革

研究期間 19ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 塩浜ホーム

発表者：小松 直樹

アドバイザー：歯科医師浅野先生、生活課長箱崎

共同研究者：臼倉 丈祐、 山崎 秀一

電 話 03-5683-5571

メー ル shiohamahome@bz01.plala.or.jp

FAX 03-5683-5575

URL <http://www.asokakai.or.jp/siohama/>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人あそか会が母体である塩浜ホームは、法人内では4番目の特養として平成7年7月に開設されました。特養60床、ショートステイ10床に居宅介護支援事務所が併設された小規模の施設ですが、「利用者本位」の精神を大切に地域に根ざされた施設づくりを目指して日々努めています。

《研究前の状況と課題》

平成21年11月から「口腔機能維持管理加算」の取得を開始し、訪問歯科医の指導・助言のもと効果的な口腔ケアの実践を目指し取り組みを進めている。

口腔ケアの取り組みは、ご利用者にとって食べる喜びと共に心身の健康に繋がる大切なケアである事は言うまでもなく、職員による適切なケアの向上が求められている。

今回は、職員間でより具体的に口腔ケアの理解と知識を深めるため、嚥下困難等を伴うご利用者を各フロアから1名ずつ合計3名選出しその成果等検証を行った。

結果については更なる取り組みの拡充を図るための指標としていく。

《研究の目標と期待する成果》

- ご利用者の病気の予防やQOLの向上。
- 誤嚥性肺炎の防止。
- 口腔体操への参加に拒否されるご利用者へのアプローチ。
- 口腔体操の回数の増加。
- 定期的な歯科医師からの指導、助言による職員の更なる知識、技術の向上。
- ケア対象者の早期発見。
- 義歯を作成、装着する事で食事形態のアップを図ることによりご利用者の食への意識向上、食べることに楽しみを感じる事ができ、より深い満足感を得る事ができる。
- 口腔ケアの取り組みによってご利用者と接する機会が増えより深い信頼関係の構築が可能になる。

《具体的な取り組みの内容》

＜対象者の特定＞

- ①スクリーニングを行い、口腔ケアの取り組みを行う対象者 3 名を決める。
- ②水飲みテスト、咽頭挙上テストを実施し、取り組みを開始する。
- ③変化を観察するため、口腔内を撮影し評価を行う。

【対象者】

【A 様】年齢 87 歳、男性、要介護 4、
食事形態=主食全粥、副食極細、トロミ=有、
むせ込み=有、自歯=上下有、義歯=有(上義歯)

【B 様】年齢 90 歳、女性、要介護 3、
食事形態=主食全粥、副食ミキサー、トロミ=無、
むせ込み=時折有、自歯=無、義歯=総義歯

【C 様】年齢 87 歳、女性、要介護 4、
食事形態=主食全粥、副食刻み、トロミ=無、
むせ込み=無、自歯=上下有、義歯=上義歯作成

＜フロア毎の口腔ケア対応＞

- ・音楽を流し口腔体操に参加しやすい環境を作る。
- ・経口摂取のご利用者に対し口腔体操(唾液腺マッサージ、嚥下体操、発声練習、口腔周囲筋の運動等)を 1 日 1 回から 2 回へ増加し口腔レクリエーションを実施する。
- ・週に 1 回訪問歯科医師による指導、助言等を受け 1 ヶ月毎に口腔ケア委員会を開催する、又定期的に歯科医師と合同勉強会を開催する。
- ・歯ブラシを 1 ヶ月に 1 回交換する。

《取り組みの結果と評価》

- ・対象者 A 様は食事摂取時、強いむせ込みが見られているが、口腔ケアを継続する事により現在もご家族と外食されご自身の好きな食べ物を誤嚥される事なく摂取できている。
- ・対象者 B 様は食事摂取後、嘔吐される事が頻回にあったが口腔ケアを継続し 1 口の摂取量の面からスプーンをティースプーンへ変更する事により嘔吐される回数は減少し現在は嘔吐等みられていない。
- ・対象者 C 様は義歯を作成する事により食事形態が上がった、又口腔ケアを継続する事により ADL、QOL 共に安定している。
- ・口腔体操を 1 日 1 回から 2 回へ回数を増やす事に成功し日常業務に定着し、参加者も増えている。
- ・口腔ケア委員以外の職員でもご利用者の口腔内に関する異常の早期発見ができた。
- ・肺炎の発症は 0 件。誤嚥性肺炎による入院者を出す事なく体調の維持ができた。

《今後の課題》

- ・入浴日やその日の職員数の関係で、口腔体操等の取り組みが十分に実施できない日がある為業務の見直し及び全職員へアプローチの強化。
- ・ご利用者のその日の体調や気分にあった体操が実施できるよう体操のバリエーション増加。
- ・胃瘻のご利用者の経口摂取移行への取り組み。

《提案と発信》

【メモ欄】